

國家機密

帝國國策遂行要領ニ關
スル御前會議ニ於ケル

質 疑 應 答 資 料

59

昭和十六年九月六日

0369

目 次

一、對米英戰爭ハ避ケラレヌカ

二、對米英戰爭目的如何

三、對米英戰爭ノ見込待ニ如何ニシテ戰爭ヲ終結セントスルヤ

四、支那ニ於ケル米英「ソ」支ノ軍事の結合關係如何

五、支那ニ於ケル米英露支ノ軍事の結合關係如何

六、戰爭準備ヲ十月下旬ヲ目途トセル理由如何

七、十月上旬頃迄ノ作戰準備ト爾後十月下旬迄ノ作戰準備トノ差ハ何カ

之ト外交トノ關係如何

八、「外交上要求達成ノ目途ナキ場合直ニ開戰ヲ決意ス」トアルカ武力

發動ハ何時トナルヤ

九本文第三項ノ終リニ「。開戦ヲ決意ス」トアルカ其ノ意義ハ如何

一〇米「ソ」提携阻止ノ手段方法如何

一一對南方以外ノ施策トハ何カ

一二十月上旬對米英開戦決意後何故外交交渉ヲ行ハサルヤ武力發動ノ直

前迄外交交渉ヲ行フヲ可トセスヤ

一三南方作戦ハ支那事變處理ニ如何ニ影響スルヤ

一四最近ニ於ケル重慶政權ノ動向ト支那軍ノ實情如何

一五米英ノ佛印泰ニ對スル軍事的施策ノ實況如何

一六獨「ソ」戦ノ見透其後ノ獨逸軍ノ作戦豫想

一七對米英戦争遂行ノ爲獨伊トノ關係如何

一八南方ニ關聯シ北方ニ對シテハ如何ニ考フルヤ

一九本年內ニ獨「ソ」戰ノ推移我ニ有利ニ進展シ北方ニ對シ武力行使ス
ルカ如キ事態發生スルヤ

二〇南方作戰ト船舶トノ關係如何

二一要求事項中援蔣行爲ノ中止（一ノ（三））ハN工作ニ示セルコトト矛盾
セスヤ

二二國土防衛ノ現狀如何

二三別紙ノ如キ要求並約諾限度ヲ以テ對米交渉ノ見通シ如何

二四最少限度ノ要求事項ト約諾シ得ル限度トノ關係如何

二五別紙第一ニ盛ラレタ條件全部カ容レラレネハ外交ハ決裂サセルノカ

二六比島ハ米領ナルカ之カ中立ヲ保障ストハ如何ナル意味カ

二七別紙第二ノ第二號ニ「公正ナル極東平和確立後佛領印度支那ヨリ撤

兵スル用意アルコトトアルカ佛印トノ協同防衛ヲ如何ニスルカ又
佛印トノ共同防衛ハ現在如何ニナリアリヤ

二八 南方外廓諸地方ニ於ケル敵領兵力ノ狀況如何

二九 南方諸地方ニ於ケル敵性兵力（海軍除ク）竝ニ最近ニ於ケル變化ノ
狀況如何

三〇 米本國ノ陸軍軍備ノ概要如何

三一 米英巨頭洋上會談ニ對シ如何ニ觀察シアリヤ

一、對英米戰爭ハ避ケラレヌカ

帝國ノ支那事變處理ヲ中心トスル東亞新秩序ノ建設ハ八紘一宇ノ國是ニ則リタル帝國不動ノ國策ニシテ國家ノ生命ト共ニ悠久ナル發展ヲ遂クヘキモノナリ

然ルニ米國ノ對日政策ハ現状維持ノ世界觀ニ立脚シ世界制覇ト民主主義擁護ノ爲帝國ノ東亞ニ於ケル興隆發展ヲ阻止セントスルニ在ルモノノ如ク是ニ於テ日米ノ政策ハ根本的ニ背馳シ兩者ノ衝突ハ一紙一弛ヲ經テ遂ニ戰爭ニ迄發展スヘキハ歷史的必然性ヲ持ツト云フヘキナリ

現實ノ事態ハ米國カ其ノ對日政策ヲ變更セサル限り帝國ハ自存自

衛ノ爲最後ノ手段タル戦争ニ訴ヘサルヲ得サル絶對絶命ノ境地ニ
立到レルコト玆ニ再説ヲ要セス

今假ニ一時ノ平和ノ爲國策ノ一部後退ニ依リ米ニ一步ヲ讓ランカ
米國ノ單邊的地位ノ強化ハ更ニ十步百步ノ後退ヲ要求スルニ至ル
ヘタ遂ニハ帝國ハ米國ノ願使ニ甘ンセサルヲ得サルニ至ルヘシ

三 對米英蘭戰爭目的如何

對米英蘭戰爭ノ目的ハ東亞ニ於ケル米英蘭ノ勢力ヲ驅逐シテ帝國
ノ自存自衛圖ヲ確立シ併セテ大東亞ノ新秩序ヲ建設スルニ在リ
漢言セハ帝國ト南方諸邦トノ間ニ軍事政治經濟ニ互リ密接不離ナ
ル結合關係ヲ樹立シ帝國ノ自存自衛ヲ全カラシメ併セテ大東亞ニ
於ケル共存共榮ノ新秩序ヲ建設スルニ在リ從ツテ之ヲ妨礙スヘキ
米英蘭ノ敵性勢力ハ斷乎之ヲ驅逐スヘキナリ

三、對英米戰爭ノ見送特ニ如何ニシテ戰爭ヲ終結セントスルヤ

對英米戰爭ハ長期大持久戰ニ移行スヘク戰爭ノ終末ヲ豫想スルコトハ蓋タ困難ニシテ特ニ米國ノ屈伏ヲ求ムルハ先ツ不可能ト判斷セラルルモ我南方作戰ノ成果大ナルカ英國ノ屈伏等ニ起因スル米國輿論ノ大轉換ニ依リ戰爭終末ノ到來必スシモ絶無ニアラサルヘシ何レニスルモ南方要域ヲ占領シテ戰略上優位ノ態勢ヲ確立スルト共ニ南方ノ豊富ナル資源ヲ開發シ東亞大陸ニ於ケル經濟力ノ利用ト相俟ツテ長期自給自足ノ經濟態勢ヲ整備シ且獨伊ト提携シ英米ノ結合ヲ破壞シテ亞歐ヲ連絡スル等ニ依リ不敗ノ態勢ヲ確立シ得ヘク此ノ間情勢ヲ利導シ戰爭ヲ終熄ニ導キ得ルノ光明ヲ認メ得ヘシ

四米英「ソ」支蘭ノ軍事の結合關係如何

南方諸地方就中馬來、蘭印、濠洲方面ニ於ケル海、空軍基地ノ共同
使用ニ關シ默契アルモノト思惟セラレ一方支那奧地ニ存在スル航空
基地使用ニ關シテモ去ル七月末重慶ニ於テ米、英、支ノ空軍專問家
重慶ニ於テ合同セルノ情報アリ

米國カ從來軍需品ヲ支那ニ供給シアルハ周知ノ事實タルノミナラス
將來兵器就中航空機ト共ニ米國軍ニ軍籍ヲ有スルモノ逐次渡支シツ
ツアルハ實質上ノ米支軍事合作トシテ着目ヲ要ス

米國大統領ト英國首相トノ會談ニ於テハ帝國ノ南進ヲ阻止スル爲米
英ノ軌ルヘキ軍事の方策ヲモ協議セサルモノノ如シ一面米國カ「ソ」

聯邦援助ニ名ヲ藉リ北太平洋ヲ經テ戰用資源ノ援助ヲ行ヒアルハ有
事ノ際極東蘇領ニ軍事基地特ニ航空、海運基地ヲ獲得シテ帝國ヲ目
途トスル包圍陣ノ北翼ヲ擔任スルモノトシテ大ニ注目ヲ要スルノミ
ナラス近ク米、英、蘇ノ三國會談ヲ「モスコ」ニ於テ開催セント
シ而モ重慶政府亦之ニ參加ヲ希望シアルハ帝國ノ寸時モ看過シ得サ
ル所ナリ

0379

五 支那ニ於ケル米英蘇支軍事の結合關係

支那側ノ策動熱烈ナルモ米英ノ氣乗薄ニ依リ米英「ソ」支ヲ一環ト
スル軍事の同盟ノ如キハ認メサルモ米英支ノ軍事合作ニ就キ個々ノ
問題ニ關シテハ一部ノ了解成立シアリ

1. 米支

空軍援助

2. 英支

游撃戰部隊ノ結成

3. 日本ノ南進ニ對シテハ米英空軍ノ支那領基地ノ利用

六、戰爭準備ヲ十月下旬ヲ目途トセル理由如何

目下ニ於ケル帝國國力及戦力ノ隘路カ油ナルハ多言ヲ要セス而シテ帝國ハ目下貯油ヲ逐次消費シツツアリテ此ノ儘ノ姿勢ニテ推移スルトシテモ其ノ自給力ハ今後多クモ二年ヲ出テス大ナル作戰ヲ行ヘハ此ノ期間ハ更ニ短縮スヘク時日ノ經過ト共ニ帝國ハ武力的ニ無力トナリ戰爭遂行力ハ低下スヘシ

71

一方米國ノ海空軍ハ時ヲ逐フテ飛躍的ニ向上シ南方ニ於ケル米英蘭ノ防備ハ逐次増強セラレ從テ時ノ經過ト共ニ作戰的ニ益々困難ノ度ヲ加フルノミナラス來年秋以後ハ米國海軍軍備ノ充實ハ帝國海軍力ヲ凌駕シテ遂ニ戰ハスシテ米英ニ屈從セサルヘカラサルニ

0381

至ルヘシ

他方北方ハ氣候ノ關係上冬期大ナル作戦ハ彼我共ニ至難ナルヲ以テ此ノ期間ニ於テ遠ニ南方ノ主ナル作戦ヲ終リ明年春以降北方ニ對シ用兵上ノ自由ヲ保留スル爲ニモ成ルヘク遠ニ戦争準備ヲ完整スルコト必要ナリ

72

之レカ爲今ヨリ直チニ戦争準備ニ着手スルモ動員、船ノ徵備、機装等ヲ行ヒ且長遠ナル海上輸送ヲ以テ戦略要點ニ兵力ノ展開ヲ完了スルハ十月下旬頃ナリ

0382

六十月月上旬頃迄ノ作戰準備ト爾後十月下旬迄ノ作戰準備トノ差ハ何カ
之ト外交トノ關係如何

十月上旬迄ノ作戰準備ハ編成動員、集中展開、基地ノ設定等ヲ含
ムモノトス而シテ此ノ期間ニ於テハ外交交渉ニ最善ヲ盡シアル時
期ナルヲ以テ努メテ秘密ニ行ヒ企圖ヲ秘匿シ又南部佛印ヘノ増兵
ハ之ヲ避クル等外交交渉ニ妨害ヲ及ホササル如クスヘキモノナリ
爾後（開戦決意後）十月下旬迄ノ作戰準備ハ十一月初メノ武力發
動ヲ基準トシテ一切ノ作戰準備ヲ完結スルモノニシテ此ノ期間ニ
於ケル外交ハ政略ノ轉換ヲ有利ナラシムルヲ目標トシテ行ハル
ヘキモノナリ

ハ外交上要求達成ノ目途ナキ場合直ニ開戦ヲ決意スルトアルカ武力發動
ハ何時トナルヤ

作戰準備ノ完整ヲ待チテ武力ヲ發動スヘキモノニシテ其ノ時機ハ十
一月初トナルヘシ

九本文第三項ノ終リニ「――開戦ヲ決意ス」トアルカ其意義ハ如何

之レハモウ最後ノ斷テアツテ引續キ武力ヲ發動スルコトテアル、
又ソレカ出來得ルニ外交軍事其他カ準備セラルヘキモノテアル
要ハ外交ノ見込ミカナイトナレハ早ク武力發動ヲ要スル、米英ハ
外交ヲ以テ我ヲ引摺ラント努ムルハ當然テアル、ソレニ乘ツテハ
大變タ、外交交渉ヲ以テ我要求ヲ貫徹シ得ル目途アルカナキヤヲ
彼ニ先タチテ見送ス閉ト斷アツテコソ敵ノ謀ヲ伐ツコトカ出來ル
ノテアル

一〇、米「ソ」提携阻止ノ手段方法如何

對米「ソ」戦争決意ナキ限り外交的ニハ妙手ナシ極東「ソ」領ヲ
通シテ援「ソ」物資ノ供給停止方ニ付イテハ已ニ「ソ」米ニ對シ
外交的申入レヲナセルモ其効ナシ

一、對南方以外ノ施策トハ何カ

支那事變ノ處理

北方問題

米參戰ニ對スル帝國ノ態度

國內戰時体制ノ確立

等「情勢ノ推移ニ伴フ帝國國策要綱」中南方問題以外ノ施策ヲ云フ

一二十月上旬對米開戰決意後何故外交交渉ヲ行ハサルヤ武力發動ノ直前迄外交交渉ヲ行フヲ可トセスヤ

78

對米交渉ヲ續行シツツ對米英作戦發起ノ爲ノ最後の作戦準備ヲ進ムルハ外交交渉ヲ破壞スルニ等シ故ニ南部佛印ヘノ増兵等ハ開戦決意後ニ於テ行ハルヘキモノニシテ此ノ時期ニ於テ當方ヨリ進シテ外交交渉ヲ行フヘキニアラス但シ米英ニシテ我要求ヲ全面的ニ容認スルニ於テハ戦争ニ訴フルコトナク外交交渉ニ應スヘキコトアルハ勿論ナリトス

0388

一三、南方作戰ハ支那事變處理ニ如何ニ影響スルヤ

從來對米英願願上發動ヲ控ヘアリシ重慶政權ニ對スル交戦權ノ行使ト敵往租界ノ處理ヲ即時實行スルコトニ依リ重慶政權ニ對スル壓力ヲ強化シ得ヘシ

79

又香港攻略「ビルマル」トノ遮斷ニ依リ米英ト重慶トノ連鎖ヲ完全ニ分斷シテ其ノ援蔣行爲ヲ阻止シ以テ重慶屈伏ヲ促進シ得ヘシ
特ニ帝國ノ斷乎タル對米英戰爭ノ遂行ハ重慶政權及其ノ傘下ニア
ル一般民衆ノ米英依存感ヲ粉碎シ得ヘク抗戰意志ノ紐帶ハ破綻シ
抗戰體制ノ崩壊ヲ來ス公算大ナリ從テ對米英戰爭經過中ニ於テ重
慶屈伏ノ機ヲ捕捉シ得ル公算少カラス然レトモ

万

0389

一帝國國力ノ消耗國民士氣ノ沈衰等ヲ見ルコトアランカ重慶政
ノ抗戰意志ハ却テ昂揚セラレ事變解決ノ見透ヲ益々困難ナラシム
ルニ至ルヘシ之レ帝國ノ戰爭指導上注意ヲ要スル所ナリ

一四、最近ニ於ケル重慶政權ノ動向ト支那軍ノ實情如何

(1) 重慶側ハ帝國現下ノ動向ヲ注視シ之カ對應策ヲ講シアルモ一ニ帝國ノ在支兵力ノ抽出轉用ト米英ノ對日壓迫ノ加重ニ依ル局面ノ好轉トヲ期待シ之カ實現ノ爲策謀宣傳シアルニ過キス

81

(2) 軍事ニ在リテハ概ネ約三百ヶ師百九十八萬空軍第一線機約一一〇機ニシテ支那軍自力ヲ以テスル決戰的總反攻ハ當分實施シ得サルヘキハ過般ノ揚子江下流ニ於ケル第三戰區ノ反抗ニ徴シ明瞭ナリ但シ目下相當ノ期待ヲ以テ空軍ヲ再建中ナルモ未タ我ニ脅威ヲ與フル態度ニアラス

(3) 國內體制ニ在リテハ共產黨及南京和平派ノ左右兩翼ヨリスル攻勢

0391

ハ未タ重慶政權ノ動搖破綻ニ何等ノ影響無キモ財政經濟上ノ逼迫
ハ顯著ニシテ漸次破局ニ近迫シツツアルノ兆候歴然タルモノアリ
(二) A、B、C、D政策ヲ外交上ハ勿論戰時國策ノ中心方策トシ内外
相俟ツテ之カ強化具現ニ躍起トナリアルモ未タ大ナル影響無キモ
ノノ如シ

一五、英米ノ御印泰ニ對スル軍事の施策ノ實況如何

一、英國

イ、帝國カ泰國ニ對シ武力の壓迫ヲ加フルニ於テハ英國亦武力ヲ以テ之ニ對抗スヘシトノ意志ヲ仄カセリ

ロ、泰國カ第三國ニ對シ軍事基地ヲ提供シ或ハ軍事上ノ便宜ヲ供與スルニ於テハ英泰間ノ不可侵條約ハ無効ト認ムトノ恫喝的通告ヲナス一方軍事基地設定方ヲ同國ニ強要シ其ノ代償トシテ燃料ノ供給竝ニ泰國ノ失地回復ニ關シ考慮ヲ拂フ旨甘言ヲ以テ之ヲ導キアリ

ハ、八月四日英主力艦「ウオアスバイト」號「シヤム」灣ニ徘徊セル

ノ情報アリ

ニ、佛印ニ對シテハ直接的軍事施策ナキモ帝國ノ意圖スル所ヲ事
毎ニ防警シアリ

ニ、米國

イ、佛印問題ニ關シ聲明ヲ發シ佛印共同防衛ニ關シ佛國政府ヲ非
難セリ

ロ、佛印在留米國人ノ引上ヲ命ス

ハ、泰國ニ對シ同國防衛ニ關シ強硬態度ヲ取ルコトヲ恣恠シ武帝
供與方ヲ提議セリトノ情報アリ（中立保障ノ提議ナリ）

一六獨「ソ」戰ノ見透其後ノ獨逸軍ノ作戰豫想

(4) 獨軍ハ十月末若ハ十一月上旬頃迄ニ「ソ」野戰軍主力ヲ擊滅シ
歐「ソ」ノ主要部ヲ占領シテ有力ナル一部ヲ以テ敗退セル「ソ」
軍ト相對シ次テ高架索、近東北阿作戰ヲ開始スル公算大ナリ
之カ爲左ノ如ク判斷ス

ノ本秋ノ進出線

白海、「モスコ」東側、「ドンパス」ヲ連ナル線

2 右歐「ソ」作戰終了前後頃ヨリ先ツ高架索作戰ヲ又略之ニ引
續キ近東、北阿作戰開始セラルヘシ

3 對英作戰ハ對「ソ」戰充當ノ空軍兵力轉用ト共ニ逐次空襲ヲ

激化シ通商破壊戰亦強化セラルヘキモ上陸作戰ハ近來、北阿
作戦終了後來春夏ノ候ニ延期セラルルナラン、

一七 對米英戰爭遂行ノ爲獨伊トノ關係如何

87

0397

本戰爭推移ノ見透既述ノ如クナルニ稽ヘ帝國ハ獨力ヲ以テ戰爭ヲ
完遂スルノ覺悟ヲ必要トスルハ勿論ナルモ獨伊トノ間ニ鞏固ナル
結合關係ヲ保持スルコト肝要ナリ之カ爲獨伊ハ米英ト單獨締和ヲ
ナササルコト、日獨伊ハ協力シテ先ツ英國ヲ屈伏セシムルコト等
ニ就キ約諾ヲナスノ要アリ
但シ獨伊ノ都合ニ依リ南方作戰ヲ發足ヲ制限セラレサルノ用意必
要ナリ

一八、南方ニ關聯シ北方ニ對シテハ如何ニ考フルヤ

南方武力行使間北方ニ對シテハ爲シ得ル限り二正面作戰ヘノ擴大ヲ避クル如ク特ニ米蘇ノ對日共同戰線ノ結成ヲ防止スルニ勉ムヘキモノトス

帝國トシテハ南方武力行使ニ伴ヒ米「ソ」ノ提携ヲ當然豫期セサルヘカラサルモ冬季間ハ氣候ノ關係ニ依リ軍事的ニ之ヲ實現ハ困難ナリト認ム

然レトモ獨蘇戰ノ推移帝國ノ爲有利ニ進展セルカ米蘇提携ニヨル北方ヨリノ脅威極メテ大ナルカ或ハ「ソ」ヨリ攻勢ヲトル等國防上忍フヘカラサルカ如キ事態到來セル場合ニ於テハ南方武力行使

リ 間又ハ行使前ニ於テモ武力ヲ行使シテ北方問題ヲ解決スルコトア

一九、本年內ニ獨「ソ」戰ノ推移我ニ有利ニ進展シ北方ニ對シ武力行使ス
ルカ如キ事態發生スルヤ

90

時日ノ經過ト共ニ情勢ハ有利ニ進展スヘキコト固ヨリト判斷セラ
ルモ我ノ所期スルカ如キ有利ナル情勢ハ極寒期以前ニハ先ツ到
來セサルモノト判斷ス

蓋シ獨ハ本年內ニ歐「ソ」ノ大部ヲ席捲シ「スターリン」政權ハ
「ウラル」以東ニ逃避スヘキ事態ネ確實ナルモ「スターリン」政
權カ直ニ崩壊スルモノトハ判斷セラレス目下極東「ソ」領ハ一般
ニ意氣揚ラサルモ未タ動搖ノ徵ナク歐「ソ」ニ於ケル敗戦ノ影響
カ極東ニ波及シ極東一般ノ情勢ニ動搖變化ヲ生スル迄ニハ若干期

0400

日ノ經過ヲ要スヘシ

然レトモ本冬ノ極寒期ハ「ソ」聯ニ取リ最大ノ危機タルヘク食糧
及燃料ノ不足配給ノ不圓滑等ニ依リ情勢急變スルコトモアリ待ヘ
ク又歐「ソ」喪失後ハ「スターリン」政權カ時日ノ經過ト共ニ弱
化シ戦争遂行力ヲ喪失スルニ至ルヘキハ明カニシテ從ツテ帝國ノ
爲有利ナル情勢カ早晚到來スヘキコト疑ヲ入レサルヘシ其時機ハ
先ツ本年極寒期以降ト判斷ス

然レトモ假令好機到來スルモ嚴寒ノ候ハ作戰困難ナルヲ以テ武力
行使ハ明年晩冬トナルヘシ

二〇、南方作戰ト船舶トノ關係如何

南方作戰ニ際シ民需充當用船舶ハ約三ヶ月間經最少量ノ時期カアリ
之カ爲一時生産力ニモ影響スヘキモ之等ハ戰爭遂行上ノ必要ニ基キ
國家トシテハ一時之ヲ凌カサルヘカラス軍トシテハ戰略上ノ要求ト
長期戰ニ伴フ生産擴充上ノ要求トノ關係ヲ特ニ留意シテ經濟的ニ船
舶ヲ運用スヘク數次ノ檢討ヲ了シアル次第ナリ

二、要求事項中撥行爲ノ中止（一ノ（四））ハN工作ニ示セルコトト矛盾
セスヤ

（Nニ於テハ勸告シテ廢シナケレハ中止セヨト要求シ本案ニテハ（イ）ト
（ロ）ヲ併立セシメアリ）

本件ハ終局ニ於ケル要求ニシテ從來N工作ニ於テ支那事變處理ニ關
シ主張セル帝國ノ態度ヲ妨クルモノニアラス

二、國土防衛ノ現狀如何

國土防衛ノ爲陸軍ニ在リテハ先般來防衛部隊ヲ逐次編成配置シ銳意教育訓練ノ實施施設ノ強化ニ努力中ナルモ未タ萬全ヲ期シ難シ加之帝國都市ノ狀況ハ防空上幾多ノ弱點ヲ有シ加フルニ之カ對策ハ今尙中途ニ在リ

現狀ニ於テ開戦ノ曉ニハ相當大ナル被害ヲ蒙ルコトアルヲ覺悟セサルヘカラス

然レ共陸海軍ハ進攻作戰ニ依リ敵航空勢力ノ破潰ニ勉ムヘキヲ以テ軍官民一致協力不退轉ノ決意ヲ以テ危機突破ニ努ムルニ於テハ空襲ノ慘禍ヲ局限シ得テ戰爭遂行ニ大ナル支障ヲ來ササルモノト

0404

認
ム

0405

二三、別紙ノ如キ要求並約諾限度ヲ以テ對米交渉ノ見越シ如何

日米相互ノ讓歩ノ精神ニヨリテノミ成立スヘシ現在ニ於ケル米國
ノ態度ノ如ク日本ノ讓歩ノミヲ要求シ殊ニ支那事變處迄大東亞共
榮圈ノ建設ヲモ放棄セシメ三國同盟ヨリ脫退ヲ強要スルニ於テハ
成立ノ公算少ナカルヘシ

二四、最少限度ノ要求事項ト約諾シ得ル限度

最少限度ノ要求事項ヲ米英カ應諾セル場合ニ約諾シテ支障ナキ限度ノ意ニシテ當初ヨリ我約諾シ得ル限度ヲ展開スヘキモノニアラサルト共ニ我要求限度ハ一字一句ノ修正ヲモ罷リナラヌトイフヘキモノニアラサルモ根本ニ於テハ斷シテ變更スヘキモノニアラス又外交技術上先ツ大ナル要求ヲ提示シ逐次之ヲ減スル等ハ間ツトコロニアラサルハ勿論ナリ

然レトモ本件ハ統帥ト關聯スル所多キヲ以テ政戰兩略緊密ナル連繫ヲ保持スルコト必要ナリ

二五 別紙第一ニ盛ラレタ條件全部カ容レラレネハ外交ハ決裂サセルノカ

「別紙第二帝國ノ約諾シ得ル限度」ノ第一、第二項ヲ諾スルハ事實
トシテ米英ノ最大脅威タル帝國ノ南方武力進出ヲ取止ムルコトト
ナルノテ大ナル恩惠ヲ彼レニ與フルコトトナル

97

一方我國トシテハ大陸資源ト米英蘭ノ資源ヲ利用シテ行クコトニ
ナルノテアルカラ條件ハ一步モ譲ルコトハ出來ヌ。殊ニ南方武力
行使セサルコトヲ約スル以上ハ支那ハ完全ニ我帝國ノ思フ様ニセ
ネハナラヌ。之レカ爲ニハ何ト云フテモ必要ノ陸兵ヲ絶對ノ要件
トス。全部撤兵ナトシテハ支那ハ言フコトヲキカヌ。日本ハ生存
出來ヌ。陸軍八十數万ノ犠牲ヲ拂フテ居ル。又南方武力不行使ヲ

0408

約スル以上ハ彼等ヲシテ帝國ノ國防ヲ脅威スル様ナ行爲ニ出テシ
メサルコトハ當然テアル。若シ彼等カ我呈出條件ニ應セサルナラ
ハ彼等ハ日本ヲ屈伏セシメントスル本心アルモノト見ルヘキテ之
ヲ吾人カ讓歩スルナラハヤカテ彼等ノ毒刃ニカカルハ隙カテアル

二六 比島ハ米領ナルカ之中立ヲ保障ストハ如何ナル意味カ

比島カ獨立セル後日米兩國ハ之中立ヲ保障スルトノ意ナリ

二七 別紙第二ノ第二號ニ「公正ナル極東平和確立後佛領印度支那ヨリ撤兵スル用意アルコト」トアルカ佛印トノ協同防衛ヲ如何ニスルカ又佛印トノ協同防衛ハ現在如何ニナリアリヤ

100

公正ナル極東平和確立（支那事變和平解決ヲ含ム）セハ佛印カ米英支ヨリ蒙ル脅威ハ當然解消ヲスヘキヲ以テ撤兵スルモ佛印側ニ何等ノ支障ナカルヘシ

現在ハ日佛印共同防衛議定書ニ基キ帝國軍カ南部佛印ニ進駐セルノミニシテ軍事上ノ具体的協力關係ニ就テハ未タ話ヲ進メアラス

0411

二八 南方外廓諸地方ニ於ケル敵領兵力ノ狀況如何

合 計	緬 甸	新西蘭	英		國 地 域
			濠 洲	印 度	地 上 兵 力 現 在 飛 行 機 力
八十八万五千以上	一、正規軍一万四千 一、予備軍其ノ他准軍隊 合計約二万	一、正規軍一万一千 別ニ海外派遣兵力二万以上	一、正規軍二十五万 別ニ海外派遣兵力十万以上	一、正規軍約三十餘万 別ニ海外派遣兵力十五万以上	一、二百機 一、二百五十機 一、二百機
六 百 機	一、五十機	一、百機	一、二百五十機	一、二百機	我南部佛印進駐以後ノ變化
	一、八月上旬操縦士、地上勤務員約百五十名新嘉坡甲谷陀ヨリ來着ス	一、變化ナシ	一、馬來方面ニ増派セル事 前記ノ如ク今後モ増兵豫想セラル	一、馬來及中東方面ニ派兵ニ努メアルカ如キモ其兵力ノ細部未詳ナリ	

ニ南方諸地方ニ於ケル敵性兵力（海軍除ク）竝ニ最近ニ於ケル變化ノ狀況如何

國地域	現 在		飛 行 機	我南部佛印進駐以後ノ變化
	地 上 兵 力	兵 力		
「グワム」	一、海兵隊 三百 二、國防軍 千五百	一、水上基地アルモ常備機 ナシ	一、變化ナシ	
比 島	一、正規軍 四万二千 二、海兵隊 九百 三、比島國防軍 十四万	一、陸海軍機ヲ合シ 約百六十機	一、比島國防軍ヲ米海軍司令官ノ轄下ニ入ル 二、比島國防軍中ヨリ約二万ヲ正規軍土人隊ニ編入ス 三、巡察隊ヲ米海軍司令官ノ轄下ニ入ル	
英 屬 來	一、正規軍 約六万 （英本國兵約一万一千、 洲兵約一万五千、印度兵 約五千） 英領「ボルネオ」ハ正 規軍一千、義勇兵二千五 百	一、陸海軍機ヲ合シ 二百乃至二百五十機	一、澳洲兵四乃至五千増加（八月中旬） 二、印度兵ハ兵數未詳ナルモ 相當増加ノ見込	
和 蘭 印	一、正規軍 七万 （爪哇島ニ五万、外領三万）	一、陸海軍機ヲ合シ 約二百機	一、土人徵集令ニ基キ第一回 徵集ヲ行ヒ（十五万ト號 スルモ過大）九月下旬ヨ リ武裝訓練開始ノ豫定	
合 計	三十三万四千七百	陸海軍機ヲ合シ 約五百六十乃至六百十機		

三〇、米國ノ陸軍軍備ノ概要（昭和一六年八月末現在）

一、兵力

正規軍

約五十万

護國軍

約三十万

編成予備軍

約五万

外ニ約五万ヲ徴兵シ正規

軍並ニ護國軍ニ編入シアリ

計約百四十万

二、師團數

1. 正規軍

師團 本土 九
屬領 二

裝甲師團 四

騎兵師團 二

2. 護國軍

師團 一八

三陸空軍

約三千五百機（第一線機）

飛行機数

本土 二七
属領 五

三、英米兩巨頭洋上會談ニ對シ如何ニ觀察シアリヤ

米英兩巨頭會談ハ米國ノ在米帝國資產凍結實施竝獨「ソ」戰終
末後ニ於ケル情勢ノ必然性ヲ考慮シ爾後ノ對樞軸殊ニ對日政策
ニ重點ヲ置キ今後ノ對策ニ關シ再檢討ヲ加ヘタルモノノ如ク米
國ハ英國ト共ニ獨「ソ」戰結末後ノ情勢ニ備ヘ

一、援英要領ト米國ノ參戰問題

二、「ソ」聯邦ノ對獨戰爭能力ヲ補強スル方策

三、對日問題

ニ關シ研究シ對日問題ニ關シテハ帝國ノ武力ヲ以テ南方ニ進出
スルニ至ルヘキ必然性ヲ豫想シ

一、日本ノ南（北）方武力使用阻止策
二、日本ノ南（北）方ニ武力ヲ行使シタル場合米英ノ對日戰爭指導要領

三、「一ソ」聯邦ノ利用要領

ニ關シ研究シタル、如ク觀察セラル



0418